

地域密着型サービス評価の自己評価票 (西館)

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
<input type="checkbox"/>	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	お元気ハウスの基本理念を玄関に掲げ、常に意識し、全職員一丸となり地域で暮らし続けることの支援を行っている		常に理念が達成できるよう、職員一人一人の意識を高め、実施できるように努力を重ねたい
<input type="checkbox"/>	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者及び家族の希望を見極め、それに合った実践の為、職員間で理念を共有している。また各ユニットごとの自己評価として目標設定することで、常に意識して業務に携わるよう努めている		ケアプランの取り組み・笑顔の対応・利用者及び家族の気持ちを尊重し、何が一番良いかを日々試行錯誤しながら取り組んでいる
<input type="checkbox"/>	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	夏祭りや餅つき行事など、地域の方々に参加していただく機会をつくと共に、常に庭を開放して、いつでも気軽に立ち寄っていただけるような雰囲気作りに努めており、家族は独自で家族会を発足され、活動していただいている		まだ特定の地域の方との関わりしか持っておらず、もっと幅広く密接な関わりが持てるよう、開かれたグループホームを目指して行きたい
2. 地域との支えあい				
<input type="checkbox"/>	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	利用者と共に散歩をしたり、近隣のスーパーへ買物に出かけ、挨拶を交わし、馴染みの関係を作れるよう努めている。また近所の方は、お孫さんを連れて外庭に散歩にいられている		ホールを開放し、いつでも気軽に立ち寄ってもらえるような環境を作るよう努力はしているが、もっと開放して行きたいと考えている
<input type="checkbox"/>	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	会合や溝掃除、神社掃除や資源回収などに参加し、交流を持っている。また近隣の家庭や店舗、公民館などにホームの広報誌を、利用者と共に持っていくなど、地元の人々と交流できるよう努めている	○	現在、馴染みの関係が作れるよう努めているが、今以上の交流が図れるよう、自己評価項目に取り上げ取り組んでいる

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	公民館に出かけたり、地域の方と顔馴染みの関係を築けるよう努めている。また訪問医師より認知症についての講演を開催してきたが、もっと役立つ事がないかと、試行錯誤している状態である	○	運営推進会議の中でも、どのようにして事業所から地域の高齢者の方の暮らしに役立てるか、力を活かせるか等を話し合っている
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価や自己評価を基に問題点があればホーム内で各ユニット毎の会議を設け話し合い、常に改善に努めている。また会議資料は全職員が常時閲覧できるようにしている		外部評価も自己評価も、日頃の自分達のケアの状況を見つめ直すきっかけとなっており、改めて意識する事ができている。また指摘される事により、気付けなかったことに気付け、より良く改善されるよう今後も努めていきたい
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部者を交えた会議では、事故報告・苦情(意見、要望)報告や行事等の報告をおこない、意見交換をする中で、職員会議やユニット毎の会議で伝達し、必要に応じて話し合うことでサービス向上に努めている		現在、利用者の介入ができていないため、今後検討して行きたいと考えている
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の意向で、運営推進会議には介入してもらっていないが、地域内でグループホーム連絡協議会を発足し、市町村と共に連携しながらサービスの向上に取り組んでいる		市町村にも会議に出席していただけるよう依頼していきたい
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現状では必要とされる方がおられないが、必要時は活用できるよう支援していく体制にある		管理者や個々の職員のみでなく、全職員が理解し、支援できるように勉強会などのテーマとして取り上げていきたい
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉づかいや態度など、精神面においても利用者を尊重できているか等、細心の注意を払いながら支援を行っている。また勉強会などで虐待が見過ごされないよう防止に努めている		常に心にとめておかねばならない事項であり、今後も今以上に全職員で取り組みたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約ごとは管理者が説明を行い、理解・納得を図っているが、不安や疑問に関しては契約後も職員全員が受け止める体制を取っており、即座に解決できるよう対応している	分らない事はすぐに質問していただき、不安にならないよう今後も配慮していく
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者及び家族からの意見や要望・不満などは職員で聞き取り、管理者へ報告すると共に、運営推進会議の中で公表し話し合っている。またそれらの意見は必ず全職員に伝達し、全職員で共有している	自ら言えない利用者に関しては、その場その場で受け止め解決するよう努め、自分で口にはできない方に関しては、想いを汲み取る努力を、今後も行っていく
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の状況に関しては、毎月お便りにして報告すると共に、必要に応じて面会時、個々に合わせた報告を行っている。また職員の異動等のお知らせは掲示板を設け、掲載している	ケアプランに関しては担当者、健康状態に関しては管理者が確実に報告するよう努めている
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情(意見・要望)ノートの活用により、全職員で問題を共有し、家族が意見を言える関係作りに努めている。また家族会議の中で意見や要望をまとめていただき、お聞きしたうえで解決方法を考えると共に、全職員に伝達し、質の向上に努めている	外部の方が入られる運営推進会議の中でも公表しており、今後も継続していく
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の中で意見交換を行うと共に、常日頃から何かあれば意見を聞くよう努めている	今以上に職員の意見を重要視していきたい
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員個々の都合を考慮しながら柔軟な調整ができるよう努めている。状況に応じては、職員個々が柔軟に対応してくれており、必要な時間帯に職員を確保できている	今後も柔軟な対応ができるよう心がけていきたい
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職は必要最小限に抑える努力はしているが、離職がある場合は退職までの期間に新しい職員を加えることにより、利用者のダメージが最小限にできるよう配慮している	職員はケアプラン担当利用者との信頼関係を崩さないよう顔合わせや、新担当者への引継ぎを充分に行うよう努めている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	それぞれの経験年数や段階に沿った内容の研修会に参加できるように配慮すると共に、全国GH協会主催の事例研究発表にも取り組み参加している。また新入職者に対しては担当者をおき、研修期間を設けたうえで、働きながらマンツーマンの指導を受ける事ができるように配慮している	ホーム内では運営推進委員を中心に、その時の問題や接遇・病気や怪我に関してなど、少人数制で毎月勉強会を開催している
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホーム職員が当ホームの職員と一緒に仕事をする機会を設けたり(研修)、当ホーム職員が外部のグループホームへ研修に出かけるなどの交流を図った。また研修会や交流会への参加により、その場において同業者との交流も図ることができている	今後も他のグループホームとの交流を深めながら、サービスの質の向上に努めていきたい
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員個々の状況を把握できるよう努めており、問題や不安があればなるべく早期に解決できるよう配慮すると共に、言いやすい環境を作る努力をしている	相談ができる職員は良いが、新しい職員や性格的に言えない職員もいると考えられる為、今後も常に配慮すると共に、職員間でも気軽に声かけや関わりができるような雰囲気作りに努める
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各職員の努力を把握し認めたいうえで、各個人が今以上に向上心がもてるような働きかけを行う努力をしている	各個人が、実際無理になっていないかなどの配慮を行いながら今後も努力していく
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前から必要に応じて話し合う場を設け、本人及びご家族の意向を汲み取りながら受け止める努力をしている。また直接本人に会うことで信頼関係を築けるよう努めている	管理者や個人的な職員のみでなく、利用前から多くの職員が関わられるよう、今後はもっと配慮する必要があると考ええる
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前より不安なことや相談があれば、いつでも受け止めお聞きし、信頼関係を築く努力をしている。また入所に至った際は担当職員も親身に話を聞くよう努めている	相談しやすい雰囲気作りに努めていきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは、本人に一番適したサービスが受けられるよう見極めながら、相談を受けている(例えば家族は今すぐ入所させたいが、本人は現在の施設に馴染んでいる際など)		新しい施設にすぐに慣れてもらおうとせず、まずは本人がどの場所が一番安心か、ご家族の負担を軽減するにはどのような方法が良いのか等を考え、自分達のペースにあわせないよう、今後も努めていく
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	まずはお互いを知る事が大切であり、無理なく生活していただくよう、入所前に可能な方は雰囲気を感じていただく場を設けるようにしている。また入所後は暫定プランを作成し、その日から全職員が馴染みの関係を築ける努力をしている		本人の性格や気持ちを尊重し、無理強いせず徐々に馴染めるよう今後も配慮する
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に笑ったり、泣いたり、支えたり支えられたりと、人生の大先輩という意識を常に持ち、尊重する気持ちを大切にしながら日々の生活を共に送っている		時折時間に追われていることがある為、利用者が主体であるということを忘れない努力をする
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族との信頼関係を築く事をとても大事にしており、同じ思いを共有し、家族と一緒に本人を支えて行く為に、常に努力を重ねている		全ての職員が左記のような関係を保てるよう、今後も努力を重ねていく
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	様々な家庭の事情がある為、まずは本人と家族との関係を充分把握するよう努め、本人と家族の関係が悪化したり、依存心が強くなるよう配慮しながら支援している		全職員が様々な情報を得たうえで、より良い関係が保てるよう今後も配慮していく
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や本人を良く知る周囲の方より話を聞き、本人の生活状況に合わせた話ができるよう努め、常に記憶に刺激を与える働きかけを行い、関係が途中で途切れないよう支援している		本人にとってなじみの人がいつでも面会に来ていただけるような雰囲気作りに努めている
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気が合う人合わない人と様々であるが、利用者同士のその時々々の関係を把握する事で、嫌な思いをされないよう配慮しながら支援するよう努めている		まだまだ職員の間では、統一した対応が出来ていない事がある為、今後も努力を重ねる

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	夏祭りやバーベキュー会、餅つきなどの行事に参加していただくなど、継続的に関わられるようにしている。また運営推進委員会に参加していただくなど、関係を断ち切らないよう努めている		利用者が入院になった際も、面会にでかけたり、訪問医師と共に担当医に状況をお聞きする体制をとっている。この先も関係を持ち続けることができれば・・と考えている
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各担当を中心に、家族・医師・看護師・介護者が話し合いを重ね、本人の意向や想いを第一に考え検討し、ケアプランを立案している		ケアプランの中での職員のケアや、利用者に対する思いの統一と、どんな対応でも本人はどう思うのか?と自問自答しながら支援することを忘れない
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報を収集したうえでケアに携わっており、後から得た情報については全職員が共有し、把握できるよう努めながら、その方を良く知り、その方らしく残された人生を幸せに過ごしていただくための支援ができるよう、努力を重ねている		常にその方の家の代わりとして機能していく努力を継続させる
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	全職員が一人ひとりの利用者を常に観察し、状況の把握に努めながら、その方らしく無理のない生活ができるよう配慮しケアプランにも取り入れている。また担当者のみでなく、他の職員も必要があれば担当者を通しプランの変更・改善を行うなど、総合的な把握に努めている		その時々を利用者の心身の状況が見えていないことがあり、日々変化していることを念頭に、今後も個々の把握に努める
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成時には必ず本人の意向に沿えるよう、本人の意志・家族・医師からの意見をいただき、カンファレンスを行う事で、立案・対応している。また思いを口にできない方に関しては、本人の表情や仕草、家族からの情報をもとに把握できるよう努めている		常に、本人の望んでいる事であるのか、本人の思いを汲み取れているのかを考えながら、今後も継続していく
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じて見直しができている。また状況に変化が生じたり、見直しが必要となった場合は、その都度話し合い、本人の思いに沿った計画を作成するよう努めている		現プラン上で出来ていない・出来る状況ではないとの判断が確実に出来るよう、全職員が配慮していく必要がある

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践・結果・気づきを記録することで、新たな問題点の立案にも役立っている。また状況に変化のある場合は申し送りノートへの記入や伝達を確実にし、ケアの実践に努めている		具体的なケアプランの内容についての記録が少ないと思われる。しかし、チームでケアすることで個人としては発見・意識できない部分にまで目が届くようになってきていると考える
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	少人数で家庭的な雰囲気を活かしながら、その方の状況に合わせて努力している。また出来る限り要望に沿った対応ができるよう、本人や家族の意見を聞き、理解した上で支援できるよう努めている		本人や家族の状況や要望を聞くことで、本人により良い対応ができるように、今後も職員間で話し合い支援していく
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	イベントの際にはボランティアを依頼したり、運営推進会議では民生員、消防訓練には近隣の防災センターの方や、救急蘇生の勉強会には消防士の方に来ていただくなどの協力を得ている		まだまだ様々な地域資源の活用を通し、地域に開かれたグループホームを目指したい
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現状では他のサービス活用していないが、他のケアマネジャーとの関わりは頻回に行っている。また必要に応じて福祉用具のレンタルや購入など、連携しながらサービスの提供を行っている		今後も個々の利用者の意向に沿って、必要に応じた対応をしていきたい
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在は必要性のある利用者がおらず、協働していない	○	今後必要に応じて関わる機会が出てくると考えられるため、全職員で学んでいく
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望に沿った医療機関と連携しており、安心して診ていただけるような信頼関係も築かれており、事業所・家族との話し合いもしっかりできている		毎日のように医師の訪問があり、職員の情報提供により、受診できている。また24時間体制で対応できている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		<p>今後も継続し、スムーズに受診が受けられるよう支援する</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		<p>利用者の心身面の管理を、医師の指示のもとに行っている</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		<p>左記の事柄はホームの職員にも伝達し、入院中は安心して過ごしていただけるよう、また帰所の際はいつでも対応できるよう、全職員が情報の共有を図っている</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		<p>職員間でも意識の統一を図り、全員が本人の最期の時まで、より良い人生を過ごせるような支援に努めている</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		<p>急変することもある為、常に全職員が連携してチームとして取り組めるよう、今後も努力していく</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		<p>次の施設で対応する職員へ、これまでの経過に加え、予測される問題点などを丁寧に申し送りしたり、自宅であれば家族への報告を確実に行うよう努める</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人生の大先輩として接する心がけを行うと同時に、常に気を配りながらプライバシーの保護に努めている	○ 時折言葉かけでプライバシーを損ねているのではないかと感じられる事があるため、言葉かけは相手を思いやるよう注意して行きたい
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	わかる力に合わせながら、本人が納得されるまで説明したり、自己決定できるよう配慮しながら支援するよう努めているが、時折本人の意向を確認せず、後になって気付くことがある	○ 本人の希望や思いを尊重し、自分で決めたり納得しながら暮らせる支援を心がけていく
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員がゆとりを持ち利用者個々の状況に応じた接し方を心がけるよう、評価会議において話し合っており、本人の意に添えるような支援に努めている	○ 常に優しい雰囲気大切に、決まった生活や時間の制限をしない。またその人のペースを大事にしながら生活できるよう今後も努力を重ねる
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ホーム内では月に1回の理容・染髪が可能であり、希望の際は、ご家族の協力のもと、望まれるお店へ行くようにしている。また好まれる化粧水などを使用しておられたり、服を買いたいと言われる方には一緒に買物に出かけている	清潔感のある身だしなみが出来るよう努めているが、パーマなどを希望されるか等、聞いていくようにする
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みのリクエストメニューを取り入れたり、食事の準備や配膳・下膳、片付けなど職員と一緒にしている	利用者個々により、分かる力が異なり、可能な限りは行っているが、今後もできる事を探しながら、みんなが食事を楽しく感じられるよう支援して行きたい
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	可能な限り対応できるようにしており。希望のある方には適量を提供している	○ 飲み物やおやつに関しては、利用者に聞きながら準備しているが、利用者と一緒におやつ作りを行うよう努めたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者個々の排泄パターンを職員が把握し、本人が不快に思われないよう工夫した対応を心がけている。また座位保持困難な方も、寄りかかる台を作成しなるとトイレで排泄できるよう支援している		排泄チェック表を活用し、利用者個々に応じた支援が出来るよう、今後も継続していく
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入りたい方、希望される時など回数を定めず入っていただけの体制にあるが、介助の必要な方は曜日や時間を決めて入浴している		今後も可能な限り、本人の希望をお聞きしながら対応していきたい
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの生活パターンを把握し、休息する時間を確実にとれるよう配慮している		自ら訴えられない方に対しては、常に観察しながら本人の体調に合わせた休息がとれるよう努めている
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	レクリエーションの参加や本人に合わせた楽しみごとやお手伝いを促したり、ドライブや散歩・買物などの気晴らしの支援をしている		本人が自分の必要性を感じられるような働きかけを、今後も継続していく
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望次第でお金を所持していただいたり、不安であればお預かりしている。また一緒に買物に出かけ、自分で自由に好きなものを購入し、支払いをされたりといった支援を行っている		利用者次第では置き場所が分からなくなれる際は、お預かりし必要に応じて渡し、使えるよう支援している
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出を希望される方には希望される場所へ、希望されない方にも外出する機会を多く持つよう心がけている	○	もっと沢山の利用者が好きな時に外出が出来るよう、職員間で協力しながら出かけられる体制を整えて行きたい
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	コスモス見学や桜の花見、ホテル見学、観劇会など季節を感じていただけるよう外出を計画し実践している。また訴えがある場合は書きとめ、家族に伝えるなどして、本人の思いを代弁するよう努めている		家族と外出する機会を設けたり(花見・害虫駆除など)、日頃でも遠出する機会を多く持つよう心がけている

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の声を聞くことで落ち着かれたり、文字を書くことで刺激になられるため、訴えがある際はすぐに応じるよう心がけている		年賀状などのあいさつ文など、促していければと考える
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問があった際は明るく笑顔で迎え、居心地の良い空間を作り、また来ようと思ってもらえるような対応を心がけているが、時にはバタバタと忙しく十分な対応が出来ていない事がある		外部からの来訪時には職員の忙しさが伝わらないよう、居心地の良い空間作りに今後も心がけていきたい
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会の中でも学び、絶対のあつてはならないことと深く受け止め、拘束のない支援に努めている		自分では感じていなくても、言葉での拘束と考えられる場面があるので、今後も注意を重ねていく
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけておらず、天気の良い日はドアを開放し、常に利用者が自由に入出りできるようにしており、利用者によっては外気浴を楽しまれる方もおられる。夜間帯は鍵をかけている		鍵をかけない状況にしていることを職員も理解しているが、自由に出て行かれたりされるため、職員の気配りや目配りが重要と考えている
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に人数確認を心がけ、利用者の所在や様子の把握に努めている。その為に職員間の声かけやこまめな見守りを徹底するようにしている		動きが激しい方にはケアプランで立案し、職員全員統一しながら支援を行っている。今後もプライバシーに配慮しながら安全確認を行い、支援していく
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険な物の取扱いには特に気を配り、見守りを怠らないよう配慮している		縫い物・編み物・料理が得意な利用者の為、今後も保管・管理を怠らないよう支援していく
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止のための勉強会を開催したり、事故防止委員会(現在は運営推進委員会・もんじゅの貝)で、定期的に話し合いを重ねながら事故防止に取り組んでいる		事故を起こしてしまったり、発見した場合は事故報告書を用いる事でどうしたら良かったのか、整理して考えられるよう対応し、またその情報を知ることによって他の職員も勉強するよう今後も努力していきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時の対応については、定期的に消防署員の方より指導・訓練を仰いでいる。また勉強会により、その報告の仕方や対応、様々な疾患から予測される急変についても勉強会を行い向上に努めている		今後も定期的に指導・訓練を受けていく
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の対応方法を目につきやすい所に掲示している。また地域の方の協力を得られるよう働きかけを行っている		万が一の場合に備え、職員全員が対応に自身が持てるように努めていきたい
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入所の際はもちろんのこと、常に一人ひとりに起こりうるリスクや全員におこりうる可能性については話し合い、今・その時を大事にしながらかつらしている		管理者のみでなく、お年寄りに起こりうるリスクを職員全員が共有できるように説明を行い、それに合わせて対応するよう努めている
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状態を充分把握しておくことで、異変に気付けるよう常日頃から観察力を養うよう心がけている。また些細な変化も見逃すことがないように努め、異変が合った場合は確実に速やかに報告するよう努力している		異変があった場合は申し送りを徹底すると共に、職員間で情報を共有するよう努めている
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服に関しては勉強会や内服一覧表を用い、利用者個々の内服内容を熟知したうえで支援するよう努めている	○	薬の内容や副作用について、全職員がきちんとした理解はできていないと考えられる為、今後も勉強会などを重ね、確実な服薬支援が出来るようにしていく
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘についての勉強会を開催したり、確実な対応ができるよう申し送りを徹底している。また排泄表をチェックしながら個々に応じて対応している		利用者個々によっては、水分を多めに促したり牛乳を促したり、お腹を温めマッサージなどを行い排泄を促している。繊維の多い食事などに今後は気をつけていきたい
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、その方に応じた口腔ケアが行えるよう心がけている。また義歯は週に2回洗浄剤で消毒を行っている		出来る範囲は本人自ら行っただき、できない範囲のみ支援している。また促し方次第で不安になられるため、無理強いしないよう心がけている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている		同じ水分でも、ムセがあったり、水分を好まれない利用者に対しては、トロミ剤を使用したりゼリーを作ったりして、摂取可能な状態で必要量を確保できるよう心がけている
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)		常に勉強会の機会を持ち、内容を再確認していくよう努めたい
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	○	調理する時間帯にも注意を払いながら行っているが、今後は定期的な食器の消毒も行う必要があると考える
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	○	もっと親しみやすい雰囲気を出し、近隣の方に自由に入出入りしていただけるよう、今後も工夫していきたい
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	○	時折テレビの音が不快になられる方がおられるので、注意が必要である。また畳での居場所を作って行きたいと考えている
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている		ある程度、利用者の落ち着くスペースが決まっているが、常にその場所がいいとは限らない為、今はどうなのか・・・と考えていく必要がある

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の方と相談し、本人が使用していたテーブル及び椅子を置いたり、仏壇なども置かれ、今まで暮らしていた時と同様の環境作りを心がけている		居室内においては、安全性も考えながら、好みの物・使い慣れた物を制限せず置ける工夫を今後も行っていく
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日の換気・掃除に配慮している。また自室へ戻られた際の空調の調整も配慮しながら過ごしていただいている		臭いがある場合はすぐに換気を行ったり、消臭剤を使用したり、天気の良い日はお布団を干すなどして、気持ちよく過ごしていただけるようこまめな配慮に心がけている
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家庭的な環境を大事にしながら安全面には配慮し、生活観をなくさないよう制整頓し、障害物につまづいたりしないよう注意している		移動する場所には手すりを設置しており、廊下も、ご自分で車椅子を操作する際、十分な広さが確保できている
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	過剰な援助にならぬよう、利用者の出来ない部分のみを援助し、残存能力を生かせるよう心がけているが、時折場所が分からず、あちこちのドアを開けられる利用者がおられる	○	トイレ以外の場所の表示がない為、そこがどのような場所なのかを、文字や絵などで表示するなどの工夫をする必要があると考える
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に出てベンチに腰かけ、おしゃべりを楽しんだり、花のみずやりをされるなど、従に活動できるよう配慮している。またホームの裏には畑がある	○	今後は今以上に、季節ごとに花を植えたり、畑作りに参加できるような活用を行って行きたい

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

家族独自で家族会を発足していただいております。自発的に、月に一度「家族支援活動」と称し、草取りやワックスがけなどのご協力をして下さっており、大変ありがたく感謝しております。お元気ハウスは利用者や家族の皆様にご自分の家だと思っただけのようなホーム作りを目指しています。今まで過ごしてこられた家と同じように、職員も一人ひとりが家族の一員のように接し、最期の時まで、その人らしくをモットーに全職員が取り組んでいます。

地域密着型サービス評価の自己評価票 (東館)

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
<input type="checkbox"/>	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	お元気ハウスの基本理念を玄関に掲げ、常に意識し、全職員一丸となり地域で暮らし続けることの支援を行っている		常に理念が達成できるよう、職員一人一人の意識を高め、実施できるように努力を重ねたい
<input type="checkbox"/>	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者及び家族の希望を見極め、それに合った実践の為、職員間で理念を共有している。また各ユニットごとの自己評価として目標設定することで、常に意識して業務に携わるよう努めている		ケアプランの取り組み・笑顔の対応・利用者及び家族の気持ちを尊重し、何が一番良いかを日々試行錯誤しながら取り組んでいる
<input type="checkbox"/>	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	夏祭りや餅つき行事など、地域の方々に参加していただく機会をつくと共に、常に庭を開放して、いつでも気軽に立ち寄っていただけるような雰囲気作りに努めており、家族は自分で家族会を発足され、活動していただいている		まだ特定の地域の方との関わりしか持っておらず、もっと幅広く密接な関わりが持てるよう、開かれたグループホームを目指して行きたい
2. 地域との支えあい				
<input type="checkbox"/>	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	利用者と共に散歩をしたり、近隣のスーパーへ買物に出かけ、挨拶を交わし、馴染みの関係を作れるよう努めている。また近所の方は、お孫さんを連れて外庭に散歩にいられている		ホールを開放し、いつでも気軽に立ち寄ってもらえるような環境を作るよう努力はしているが、もっと開放して行きたいと考えている
<input type="checkbox"/>	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	会合や溝掃除、神社掃除や資源回収などに参加し、交流を持っている。また近隣の家庭や店舗、公民館などにホームの広報誌を、利用者と共に持って行くなど、地元の人々と交流できるよう努めている	○	現在、馴染みの関係が作れるよう努めているが、今以上の交流が図れるよう、自己評価項目に取り上げ取り組んでいる

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	公民館に出かけたり、地域の方と顔馴染みの関係を築けるよう努めている。また訪問医師より認知症についての講演を開催してきたが、もっと役立つ事がないかと、試行錯誤している状態である	○	運営推進会議の中でも、どのようにして事業所から地域の高齢者の方の暮らしに役立てるか、力を活かせるか等を話し合っている
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価や自己評価を基に問題点があればホーム内で各ユニット毎の会議を設け話し合い、常に改善に努めている。また会議資料は全職員が常時閲覧できるようにしている		外部評価も自己評価も、日頃の自分達のケアの状況を見つめ直すきっかけとなっており、改めて意識する事ができている。また指摘される事により、気付けなかったことに気付け、より良く改善されるよう今後も努めていきたい
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部者を交えた会議では、事故報告・苦情(意見、要望)報告や行事等の報告をおこない、意見交換をする中で、職員会議やユニット毎の会議で伝達し、必要に応じて話し合うことでサービス向上に努めている		現在、利用者の介入ができていないため、今後検討して行きたいと考えている
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の意向で、運営推進会議には介入してもらっていないが、地域内でグループホーム連絡協議会を発足し、市町村と共に連携しながらサービスの向上に取り組んでいる		市町村にも会議に出席していただけるよう依頼していきたい
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現状では必要とされる方がおられないが、必要時は活用できるよう支援していく体制にある		管理者や個々の職員のみでなく、全職員が理解し、支援できるように勉強会などのテーマとして取り上げていきたい
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉づかいや態度など、精神面においても利用者を尊重できているか等、細心の注意を払いながら支援を行っている。また勉強会などで虐待が見過ごされないよう防止に努めている		常に心にとめておかねばならない事項であり、今後も今以上に全職員で取り組みたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約ごとは管理者が説明を行い、理解・納得を図っているが、不安や疑問に関しては契約後も職員全員が受け止める体制を取っており、即座に解決できるよう対応している	分らない事はすぐに質問していただき、不安にならないよう今後も配慮していく
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者及び家族からの意見や要望・不満などは職員で聞き取り、管理者へ報告すると共に、運営推進会議の中で公表し話し合っている。またそれらの意見は必ず全職員に伝達し、全職員で共有している	自ら言えない利用者に関しては、その場その場で受け止め解決するよう努め、自分で口にはできない方に関しては、想いを汲み取る努力を、今後も行っていく
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の状況に関しては、毎月お便りにして報告すると共に、必要に応じて面会時、個々に合わせた報告を行っている。また職員の異動等のお知らせは掲示板を設け、掲載している	ケアプランに関しては担当者、健康状態に関しては管理者が確実に報告するよう努めている
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情(意見・要望)ノートの活用により、全職員で問題を共有し、家族が意見を言える関係作りに努めている。また家族会議の中で意見や要望をまとめていただき、お聞きしたうえで解決方法を考えると共に、全職員に伝達し、質の向上に努めている	外部の方が入られる運営推進会議の中でも公表しており、今後も継続していく
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の中で意見交換を行うと共に、常日頃から何かあれば意見を聞くよう努めている	今以上に職員の意見を重要視していきたい
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員個々の都合を考慮しながら柔軟な調整ができるよう努めている。状況に応じては、職員個々が柔軟に対応してくれており、必要な時間帯に職員を確保できている	今後も柔軟な対応ができるよう心がけていきたい
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職は必要最小限に抑える努力はしているが、離職がある場合は退職までの期間に新しい職員を加えることにより、利用者のダメージが最小限にできるよう配慮している	職員はケアプラン担当利用者との信頼関係を崩さないよう顔合わせや、新担当者への引継ぎを充分に行うよう努めている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	それぞれの経験年数や段階に沿った内容の研修会に参加できるように配慮すると共に、全国GH協会主催の事例研究発表にも取り組み参加している。また新入職者に対しては担当者をおき、研修期間を設けたうえで、働きながらマンツーマンの指導を受ける事ができるように配慮している	ホーム内では運営推進委員を中心に、その時の問題や接遇・病気や怪我に関してなど、少人数制で毎月勉強会を開催している
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホーム職員が当ホームの職員と一緒に仕事をする機会を設けたり(研修)、当ホーム職員が外部のグループホームへ研修に出かけるなどの交流を図った。また研修会や交流会への参加により、その場において同業者との交流も図ることができている	今後も他のグループホームとの交流を深めながら、サービスの質の向上に努めていきたい
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員個々の状況を把握できるよう努めており、問題や不安があればなるべく早期に解決できるよう配慮すると共に、言いやすい環境を作る努力をしている	相談ができる職員は良いが、新しい職員や性格的に言えない職員もいると考えられる為、今後も常に配慮すると共に、職員間でも気軽に声かけや関わりができるような雰囲気作りに努める
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各職員の努力を把握し認めたいうえで、各個人が今以上に向上心がもてるような働きかけを行う努力をしている	各個人が、実際無理になっていないかなどの配慮を行いながら今後も努力していく
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前から必要に応じて話し合う場を設け、本人及びご家族の意向を汲み取りながら受け止める努力をしている。また直接本人に会うことで信頼関係を築けるよう努めている	管理者や個人的な職員のみでなく、利用前から多くの職員が関わられるよう、今後はもっと配慮する必要があると考ええる
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前より不安なことや相談があれば、いつでも受け止めお聞きし、信頼関係を築く努力をしている。また入所に至った際は担当職員も親身に話を聞くよう努めている	相談しやすい雰囲気作りに努めていきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは、本人に一番適したサービスが受けられるよう見極めながら、相談を受けている(例えば家族は今すぐ入所させたいが、本人は現在の施設に馴染んでいる際など)		新しい施設にすぐに慣れてもらおうとせず、まずは本人がどの場所が一番安心か、ご家族の負担を軽減するにはどのような方法が良いのか等を考え、自分達のペースにあわせないよう、今後も努めていく
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	まずはお互いを知る事が大切であり、無理なく生活していただくよう、入所前に可能な方は雰囲気を感じていただく場を設けるようにしている。また入所後は暫定プランを作成し、その日から全職員が馴染みの関係を築ける努力をしている		本人の性格や気持ちを尊重し、無理強いせず徐々に馴染めるよう今後も配慮する
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に笑ったり、泣いたり、支えたり支えられたりと、人生の大先輩という意識を常に持ち、尊重する気持ちを大切にしながら日々の生活を共に送っている		時折時間に追われていることがある為、利用者が主体であるということを忘れない努力をする
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族との信頼関係を築く事をとても大事にしており、同じ思いを共有し、家族と一緒に本人を支えて行くために、常に努力を重ねている		全ての職員が左記のような関係を保てるよう、今後も努力を重ねていく
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	様々な家庭の事情がある為、まずは本人と家族との関係を充分把握するよう努め、本人と家族の関係が悪化したり、依存心が強くなるよう配慮しながら支援している		全職員が様々な情報を収集したうえで、より良い関係が保てるよう、今後も配慮していく
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や本人を良く知る周囲の方より話を聞き、本人の生活状況に合わせた話が出来よう努め、常に記憶に刺激を与える働きかけを行い、関係が途中で途切れないよう支援している		本人にとってなじみの人がいつでも面会に来ていただけるような雰囲気作りに努めている
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気が合う人・合わない人と様々であるが、利用者同士のその時々々の関係を把握する事で、嫌な思いをさせないよう配慮しながら支援するよう努めている		まだまだ職員の間では、統一した対応が出来ていない事がある為、今後も努力を重ねる

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	夏祭りやバーベキュー会、餅つきなどの行事に参加していただくなど、継続的に関わられるようにしている。また運営推進委員会に参加していただくなど、関係を断ち切らないよう努めている		利用者が入院になった際も、面会にでかけたり、訪問医師と共に担当医に状況をお聞きする体制をとっている。この先も関係を持ち続けることができれば・・と考えている
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各担当を中心に、家族・医師・看護師・介護者が話し合いを重ね、本人の意向や想いを第一に考え検討し、ケアプランを立案している		ケアプランの中での職員のケアや、利用者に対する思いの統一と、どんな対応でも本人はどう思うのか?と自問自答しながら支援することを忘れない
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報を収集したうえでケアに携わっており、後から得た情報については全職員が共有し、把握できるよう努めながら、その方を良く知り、その方らしく残された人生を幸せに過ごしていただくための支援ができるよう、努力を重ねている		常にその方の家の代わりとして機能していく努力を継続させる
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	全職員が一人ひとりの利用者を常に観察し、状況の把握に努めながら、その方らしく無理のない生活ができるよう配慮し、ケアプランにも取り入れている。また担当者のみでなく他の職員も必要があれば担当者を通じ、プランの変更・改善を行うなど、総合的な把握に努めている		その時々を利用者の心身の状況が見えていないことがあり、日々変化していることを念頭に、今後も個々の把握に努める
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成時には必ず本人の意向に沿えるよう、本人の意志・家族・医師からの意見をいただき、カンファレンスを行う事で、立案・対応している。また思いを口にできない方に関しては、本人の表情や仕草、家族からの情報をもとに把握できるよう努めている		常に、本人の望んでいる事であるのか、本人の思いを汲み取れているのかを考えながら、今後も継続していく
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じて見直しができている。また状況に変化が生じたり、見直しが必要となった場合は、その都度話し合い、本人の思いに沿った計画を作成するよう努めている		現プラン上で出来ていない・出来る状況ではないとの判断が確実に出来るよう、全職員が配慮していく必要がある

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践・結果・気づきを記録することで、新たな問題点の立案にも役立っている。また状況に変化のある場合は申し送りノートへの記入や伝達を確実にし、ケアの実践に努めている		具体的なケアプランの内容についての記録が少ないと思われる。しかし、チームでケアすることで個人としては発見・意識できない部分にまで目が届くようになってきていると考える
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	少人数で家庭的な雰囲気を活かしながら、その方の状況に合わせて努力している。また出来る限り要望に沿った対応ができるよう、本人や家族の意見を聞き、理解した上で支援できるよう努めている		本人や家族の状況や要望を聞くことで、本人により良い対応ができるように、今後も職員間で話し合い支援していく
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	イベントの際にはボランティアを依頼したり、運営推進会議では民生員、消防訓練には近隣の防災センターの方や、救急蘇生の勉強会には消防士の方に来ていただくなどの協力を得ている		まだまだ様々な地域資源の活用を通し、地域に開かれたグループホームを目指したい
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現状では他のサービスは活用していないが、他のケアマネジャーとの関わりは頻回に行っている。また必要に応じて福祉用具のレンタルや購入など、連携しながらサービスの提供を行っている		今後も個々の利用者の意向に沿って、必要に応じた対応をしていきたい
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在は必要性のある利用者がおらず、協働していない	○	今後必要に応じて関わる機会が出てくると考えられるため、全職員で学んでいく
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望に沿った医療機関と連携しており、安心して診ていただけるような信頼関係も築かれており、事業所・家族との話し合いもしっかりできている		毎日のように医師の訪問があり、職員の情報提供により、受診できている。また24時間体制で対応できている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		<p>今後も継続し、スムーズに受診が受けられるよう支援する</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		<p>利用者の心身面の管理を、医師の指示のもとに行っている</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		<p>左記の事柄はホームの職員にも伝達し、入院中は安心して過ごしていただけるよう、また帰所の際はいつでも対応できるよう、全職員が情報の共有を図っている</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		<p>職員間でも意識の統一を図り、全員が本人の最期の時まで、より良い人生を過ごせるような支援に努めている</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		<p>急変することもある為、全職員が常に連携し、チームとして取り組めるよう、今後も努力していく</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		<p>次の施設で対応する職員へ、これまでの経過に加え、予測される問題点などを申し送ったり、自宅であれば家族への報告を確実に行うよう努める</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常にプライバシーに配慮しながら対応するよう心がけている。また言葉かけや対応法については定期的に話し合ったり、会議の中で話し合うことにより、常に気にとめるよう心がけている	○ その時々状況によっては、その言葉が適切かを判断しながら対応する必要があると思われる
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	何事においても本人の意向を基に対応するよう心がけている。また利用者の出来る事、分かる力を判断しながら対応にあたるよう常日頃から状況を話し合い、職員間で情報を共有し支援している	理解力の程度により、日常生活の中でどれだけ希望が言えるかによって職員がどれだけ支援を心がけるか差が出てくると考えられるが、必ず本人の納得されたうえで物事を行うように心がけている
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日その日の状況に応じ一人ひとりのペースを大切にしているが、まだまだどうしても職員側の時間や都合を優先してしまう時があり、一人ひとりの希望を伺っていない場面がある(会議で話し合う場をつくっている為、個々が意識しながら、少しずつ支援できるようになってきている)	○ 職員側のペースに合わせる事で、不安になられたりする事がある為、少しでも本人の思いを感じ取り、その人のペースを大切にしながら支援するよう努める
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ホーム内では月に1回の理容・染髪が可能であり、希望の際は、ご家族の協力のもと、望まれるお店へ行くようにしている。また好まれる化粧水などを使用しておられる	清潔感のある身だしなみが出来るよう努めているが、パーマなどを希望されるか等、聞いていくようにする
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みのリクエストメニューを取り入れたり、調理の下準備や配膳・下膳、片付けなど職員と一緒にしている	○ 評価会議で現在も話し合っている内容であり、特定の方への声かけしか出来ていない事があるため、今後も継続していく
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	可能な限り対応できるようにしており、希望のある方には適量を提供している	利用者によっては把握できていないこともある為、家族よりお聞きし必要によっては提供できるようにしていく

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者個々の状況に応じた排泄の方法に取り組んでおり、出来る限りトイレで排泄できるよう支援している		パットや下着を濡らさないで済む様に時間間隔により利用者個々で声かけ誘導を行っている。また尿意の訴えが出来ない方には、言動などに注意しながら排泄したい状況を見逃さないように努めている
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	介助の必要な人は決めた曜日に入っていただいているが、本人の希望があれば昼から入りたい、夕方入りたい、1人で入りたい等の気持ちを尊重し対応するよう努めている		本人の希望をお聞きしながら今後も対応していきたい
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間帯眠れない方に対しては、温かい飲み物を提供したり、どうしても眠れない方には眠たくなるまでホールで過ごしていただくなど、落ち着ける環境作りに努めている		夜間眠れなかった利用者には、次の日の過ごし方の中で、休息を大事にしながら対応しているが、時折入浴や食事の時間など、スムーズに変更が行えていないことがあるため、配慮する必要がある
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の意志を尊重しながら、日常生活の中で家事を中心にお手伝いを依頼したり、生花を提供したりしている		利用者次第では新聞を読んでいただいたり、散歩や外気浴、花のみずやり等を行っているが、もっと外食など利用者個々の楽しみごとを増やして行きたい
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は家族の希望で、お金を所持している方はおられないが、希望があればご自分で所持していただき、使えるよう支援していく体制がある		分かる力や本人・家族の希望があれば、スーパーでの買物の際も、本人に支払いをしていただくなどの機会を設けたいと考えている
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	評価会議内でも話し合い、なるべく郊外に出かけたり、外気浴を行うなど心がけてはいるが、特定の方になってしまっていることがある	○	職員の心がけ次第で外出の頻度が増えると考えられる為、今後も外出する機会を増やしていく
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	コスモス見学や桜の花見、ホテル見学、観劇会など季節を感じていただけるよう外出を計画し実践している。また訴えがある場合は書きとめ、家族に伝えるなどして、本人の思いを代弁するよう努めている		利用者個々の希望に応じた計画はできていないため、希望に沿った支援ができるよう心がけたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の声を聞くことで落ち着かれたり、文字を書くことで刺激になられるため、訴えがある際はすぐに応じるよう心がけている		年賀状などのあいさつ文など、促していければと考える
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問があった際は明るく笑顔で迎え、居心地の良い空間を作り、また来ようと思ってもらえるような対応を心がけているが、時にはバタバタと忙しく十分な対応が出来ていない事がある		外部からの来訪時には職員の忙しさが伝わらないよう、居心地の良い空間作りに今後も心がけていきたい
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会を開催したり、日々のケアにおいて拘束となっていないか？と考えながら支援するよう努めている		この先も把握に努めていくと同時に、自分達は身体拘束を行っていないと思っても、利用者にとっては制限をされていると感じているかもしていないという思いを忘れないよう支援していく
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけておらず、天気の良い日はドアを開放し、常に利用者が自由に入出りできるようにしており、利用者によっては外気浴を楽しまれる方もおられる。夜間帯は鍵をかけている		鍵をかけない状況にしていることを職員も理解しているが、自由に出て行かれたりされるため、職員の気配りや目配りが重要と考えている
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に人数確認を心がけ、利用者の所在や様子の把握に努めている。その為に職員間の声かけやこまめな見守りを徹底するようにしている		時折、ほんの短時間の間に外に出て行かれる方もおられる為、姿が見えないという状況を少しでもなくせるよう、今以上に職員間の声かけを徹底し、所在の確認を行っていきたい
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	物をなくすのではなく、私達がどのようにすれば安全な生活が送れるのかを考えながら支援していくよう心がけている		物が無い、物がなぜここにあるのか？という事で不安にいられたり、トラブルの原因になったりすることがあるため、本人の様子の変化に早めに気づき対応するよう今後も配慮していく
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止のための勉強会を開催したり、事故防止委員会(現在は運営推進委員会・もんじゅの貝)で、定期的に話し合いを重ねながら事故防止に取り組んでいる		事故を起こしてしまったり、発見した場合は事故報告書を用いる事でどうしたら良かったのか、整理して考えられるよう対応し、またその情報を知ることによって他の職員も勉強するよう今後も努力して行きたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時の対応については、定期的に消防署員の方より指導・訓練を仰いでいる。また勉強会により、その報告の仕方や対応、様々な疾患から予測される急変についても勉強会を行い向上に努めている		今後も定期的に指導・訓練を受けていく
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の対応方法を目につきやすい所に掲示している。また地域の方の協力を得られるよう働きかけを行っている		万が一の場合に備え、職員全員が対応に自身が持てるように努めていきたい
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入所の際はもちろんのこと、常に一人ひとりに起こりうるリスクや全員におこりうる可能性については話し合い、今・その時を大事にしながら暮らしている		管理者のみでなく、お年寄りに起こりうるリスクを職員全員が共有できるように説明を行い、それに合わせて対応するよう努めている
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状態を充分把握しておくことで、異変に気付けるよう常日頃から観察力を養うよう心がけている。また些細な変化も見逃すことがないように努め、異変が合った場合は確実に速やかに報告するよう努力している		異変があった場合は申し送りを徹底すると共に、職員間で情報を共有するよう努めている
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服に関しては勉強会や内服一覧表を用い、利用者個々の内服内容を熟知したうえで支援するよう努めている		今後も飲み込まれた事を確認するよう徹底していく
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘についての勉強会を開催したり、確実な対応ができるよう申し送りを徹底している。また排泄表をチェックしながら個々に応じて対応している		利用者個々によっては、水分を多めに促したり牛乳を促したり、お腹を温めマッサージなどを行い排泄を促している。繊維の多い食事などに今後は気をつけていきたい
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後清潔保持に努めているが、忘れがちな利用者に対しては、後ほど個別に声をかけたり見守りを行いながら援助している		出来る範囲は本人自ら行っただき、できない範囲のみ支援している。また促し方次第で不安になられるため、無理強いしないよう心がけている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事に関してはバランスよく献立が立てられるよう努めている。また摂取量や好み、禁止食品や食事形態など工夫しながら、利用者個々に合わせて対応している	今後も継続していきたい
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	その流行る時期に合わせて予防策や対応策などを勉強会で学んでいる。また手洗いの徹底や予防接種も行っている	常に勉強会の機会を持ち、内容を再確認していくよう努めたい
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	常に新鮮な食材を提供するよう努めている。また毎日使用する物は、毎日消毒を行うと共に、冷蔵庫のチェックを行い食材の賞味期限の管理を行っている	今後も確実に管理していく
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	季節に応じた花を植えたり、近隣の高校生に壁画を書いていただいたりと馴染みやすい環境作りに努めている。また玄関は利用者がほうきで掃除して下さることも多い	時折、生花が枯れていることに気付かないことがある為、職員全体が気付くよう心がける必要がある
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	実際の家庭で使用しているようなカレンダーや花を飾り、生活観が出るよう工夫している。また天井からの強い日差しには取り外しの出来るゴザをかけ、まぶしい光を遮光するなどしている	この先も普通の家らしく、工夫を重ね、不便な点は改善していくよう努める
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人掛けのソファや畳、みんなで座れるソファなどを置き、用途・希望に応じて過ごしていただけるよう配慮している。またこの場所が一番落ち着いていただけるかを考えながら過ごしていただいている	ある程度、利用者の落ち着くスペースが決まっているが、常にその場所がいいとは限らない為、今はどうなのか・・・と考えていく必要がある

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている	その方により居室の工夫がなされており、じゅうたんを敷いた り、赤ちゃんの写真を飾ってあったり、本人の使い慣れたもの を使用しており、その方らしさが見受けられる		本人の身体状況に合わせたベッドや仏壇を持ってきてお られる方もおられ、居心地良い居室作りがなされている
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	毎日の換気・掃除に配慮している。また自室へ戻られた際の 空調の調整も配慮しながら過ごしていただいている		換気をしたことで窓の開けっ放しや、タンスの上の掃除など は、今後も注意していく
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れ るように工夫している	家庭的な環境を大事にしながら安全面には配慮し、生活観 をなくさないよう生理整頓し、障害物につまづいたりしないよ う注意している		利用者個々で、手すりにつかまり歩行されたり、なるべく自 立した生活が送れるよう配慮している
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	過剰な援助にならぬよう、利用者の出来ない部分のみを援 助し、残存能力を生かせるよう心がけている	○	どちらがいいか選んでもらったり、それで良いのかを聞いて いないことがあると思われる為、本人の意思決定する力を 奪わないよう注意していく必要がある
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	庭に出てベンチに腰かけ、おしゃべりを楽しんだり、花のみ ずやりをされるなど、常に活動できるよう配慮している		この先も、楽しくくつろげる空間を工夫していく

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

家族独自で家族会を発足していただいております。自発的に、月に一度「家族支援活動」と称し、草取りやワックスがけなどのご協力をして下さっており、大変ありがたく感謝しております。私達としては、ご本人さんの行動や気持ちを一番に考えながら対応することを常に心がけると同時に、職員間の声かけを重視しております。この声かけ・コミュニケーションで職員間の手助けがあり、利用者さんを最大優先することが出来ているのだと考えます。この先も、常に今この利用者さんに何が必要なのかを考え行動できるようにしていきたいと思っております。